

ほけんだより



平成28年11月24日(木)
さくら草特別支援学校
ほけんしつ



寒くなってきました。空気も乾燥し、ウイルス性胃腸炎・インフルエンザなど何かと心配な季節になりました。今まで以上に体調管理に気を遣う毎日ですね。引き続きご家庭での健康観察をよろしくお願いいたします。

みんなで予防 インフルエンザ

さいたま市、埼玉県ともに、すでにインフルエンザの流行期に入っています。2009年に世界的に流行した新型インフルエンザを除くと、1999年の調査開始以降、最も早い流行入りということです。市内でもインフルエンザによる学級閉鎖が出ています。

流行に備えて、以下のことについてご確認・ご協力よろしくお願いいたします。

- 保護者も来校時には、昇降口での手指消毒にご協力をお願いいたします。
- インフルエンザによる出席停止の期間の基準は「解熱後2日が経過するまで」と「発症後5日が経過していること」です。
- インフルエンザにかかった場合は「受診報告書」を提出してください。(保護者の方が記入するものです) 用紙は保健室又はホームページにあります。
- 学級閉鎖については児童生徒の欠席状況や登校した子どもたちの健康状態を考慮して検討します。学級閉鎖を実施する際は、文書や安心メールにてお知らせする予定です。



もし、ご家族の方がインフルエンザになった場合は…



- 同居の家族がインフルエンザにかかった場合は、学校へお知らせください。
- バス停や学校までの送迎は、発症していない家族の方でお願いします。できれば、自主登下校にご協力ください。
- お子さんは登校後に保健室で健康チェック(検温など)を行います。ご自宅での検温と健康観察も引き続きお願いいたします。

保健室よりお願い

- インフルエンザの予防接種を受けた場合は、連絡帳等で学校へお知らせください。
- かぜ等で臨時に学校での服薬が必要な場合には、「与薬依頼書」の提出をお願いいたします。今年度初めて学校で薬を使う場合は、初回のみ保護者の方に来校していただき、服薬方法等の確認をさせていただきます。





学校保健委員会だより



学校保健委員会は、多数の保護者の方にご参加いただき、10月26日(水)に開催いたしました。

今回は、本校医療的ケア指導医の久場川伸先生をお招きして、子どもたちの健康管理についてお話しいただきました。また、後半は参加された保護者の皆様で、日頃困っていることや迷っていることについて情報交換を行い、有意義なひと時となりました。

さくら草特別支援学校 医療的ケア指導医 久場川伸先生



- まわりの大人の関わりと子どもの脳の発達、子どもへの関わり方について、具体的にお話をいただきました。
- 「子どもに言葉かけをしても無駄・・・」という考えではなく、何をする時も言葉かけをしながら子どもに接することで、刺激を与えることが大切です。
- 触れることも大切な刺激です。皮膚の感覚と神経のつながりは強く、例えば、毛にそって触ると気持ちを落ち着かせます。反対に、毛に逆らってなでると気持ちを覚醒させます。
- スウェーデン発祥の「タクティールケア」

これは、肌と肌とのふれあいによるコミュニケーションを大事にするタッチケアです。医療ではなく、特別な道具や熟練した技術を用いる必要がないので、誰でも比較的簡単に実践できます。

→紹介していただいた本が保健室にあります。ご覧になりたい方はお申し出ください。

参加された皆さんで情報交換

子どもの体が大きくなってきた時、家での移動やお風呂の介助で、いい方法はありませんか？

お風呂はリフォームしました。車は車椅子のままのせられる仕様にしました。

家に他人を入れるのは嫌でしたが、ヘルパーさんを頼むことにしました。

様々なサービスを利用しています。お風呂はすべてまかせすることで、母の体がとても楽になりました。



便秘が心配です。浣腸などをして、毎日出してあげた方がいいのでしょうか？

横抱っこで安定できる姿勢、ありませんか？

母と子の体を密着させると楽です。自分が思っているより手足が長いので、いろいろなところにぶつけてしまいますよね。

久場川先生より
便がいつまでも肛門近くにあると、固くなってしまいます。排便反射も起きなくなってしまいます。